

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 29 年 10 月 27 日	
所属部局・職	アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程(5年一貫制)学生
氏名	大塚亮真

<p><b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)</p> <p>ウガンダ共和国ブウィンディ原生国立公園</p>
<p><b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)</p> <p>ゴリラの追い返しを担うボランティアグループの調査／ブウィンディゴリラのストレスレベルの調査</p>
<p><b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)</p> <p>平成 29 年 6 月 18 日 ～ 平成 29 年 10 月 25 日 (140 日間)</p>
<p><b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士／〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)</p> <p>Conservation Through Public Health, Dr. Gladys Kalema-Zikusoka</p>
<p><b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)</p> <p>2017 年 6 月 19 日から 10 月 25 日にかけてウガンダ共和国のブウィンディ原生国立公園でフィールド調査を実施した。博士予備論文(修士論文に相当)執筆のためのデータ収集と博士過程の研究に向けての予備調査を行うことが今回の渡航の目的であった。</p> <p><b>【日程】</b></p> <p>6 月 18 日～19 日：京都→関西国際空港→ドバイ空港→エンテベ空港→カンパラ          6 月 20 日～23 日：カンパラで調査準備          6 月 24 日～10 月 20 日：ブウィンディ原生国立公園にて調査          10 月 21 日～10 月 23 日：カンパラに戻る。受入機関と次回調査について打ち合わせなど          10 月 24 日～25 日：関西国際空港→京都</p> <p><b>【ゴリラの追い返しを担う地元ボランティアグループの調査】</b></p> <p>昨年に引き続き、畑荒らしにやってくるゴリラを森へ追い返す地元のボランティアグループ、HUGO (Human-Gorilla Conflict Resolution Program/Team)の調査を行った。国立公園に隣接した村の中でも特にゴリラの作物被害に遭っているフロントライン(国立公園と村との境界付近)の世帯を訪問し聞き取り調査を実施した。UWA(Uganda Wildlife Authority)のオフィスからの距離が異なる3つの村を対象にして各村18世帯、合計54世帯を訪問した。さらに異なる地域の状況を把握するために東区、南区のHUGOメンバーたちを対象にグループディスカッションを行った。データはまだ分析中であるが、1. HUGOが特権を持つ特別な存在であると住民に広く認識されている。2. 各地域によってHUGOメンバーのアクティブさ、抱えている課題に多様性がある、ことなどが明らかとなった。またブウィンディ周辺に暮らす人々の生活をより理解するために、食事調査(成人男女3名ずつを対象/7月から10月の4ヶ月間、毎食の食事内容を配布したフォームに記入してもらった)と農作物、農耕サイクル、農法、病害虫、農作物の市場価格、相続、伝承、昔話などについて幅広く聞き取り調査を行った。2016年と2017年の調査のデータをもとに博士予備論文を執筆する。</p> <p><b>【ストレスホルモン研究の予備調査】</b></p> <p>ブウィンディの北区にいるMubareグループ、Rusheguraグループ、Habinyanjaグループの3群(すべて人付群で観光客を受け入れている)から合計で229サンプルを採取した。サンプルはネストとトレイルから非侵略的な方法で採取し、すぐにアイスボックスに入れた。サンプル採取後5-10時間以内にCTPHのラボにて1.0gの糞を8.0mlの90%エタノール入りの25mlチューブに入れて抽出した。抽出後40分間静置したのち上澄みを0.8mlとり2.0mlチューブに移した。訪れた観光客数、気温と降水量のデータ、群間でのインターアクションなどゴリラのストレスレベルに影響を与えうるデータも収集した。UWA、UNCST(Uganda National Council for Science and Technology)から正式に許可を得た上でサンプルを日本へ持ち帰った。WRC(京都大学野生動物研究センター)にてEIAを用いてサンプル中のコルチゾール濃度を測定する。</p>
<p>写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。</p>
<p style="text-align: right;">&lt;平成 26 年 5 月 28 日制定版&gt; 提出先：<a href="mailto:report@wildlife-science.org">report@wildlife-science.org</a></p>

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書  
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



写真1. ゴリラが荒らしたバナナ畑  
ゴリラは夜に村に来て夜をここで過ごした。



写真2. ユーカリりにかじりつくゴリラ



写真3. モニタリングをする HUGO メンバー



写真4. ネストに残されたゴリラのうんち



写真5. 木に登って果実を食べるゴリラ (シルバーバック)



写真6. 観光客の前でひとり遊び、ドラミングをするゴリラ



写真7. 遊ぶ子ゴリラたち



写真8. 6月中旬に生まれた赤ちゃんと母親



写真9. ブウィンディの森 (この先には南区があり、そして南区からはヴィルンガ火山群と DRC の町が見える。)

## 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

### 6. その他 (特記事項など)

今回のフィールド調査は PWS の支援のもと実施することが出来ました。研究受入機関である CTPH(Conservation Through Public Health)、そして調査許可とサンプルの輸出許可を与えてくださった UWA(Uganda Wildlife Authority)、UNCST (Uganda National Council for Science and Technology) に心より感謝申し上げます。